

## 母の口ぐせに学ぶ

群馬県 前橋市立大胡小学校六年

酒井 仁成

「人生は、前向きに楽しまなくちゃ。」

が、母の口ぐせだ。そんなほくの母は、とても個性的だ。他の人がやらないことや考えないことを絶対にする。ほくは、ゆだんしてふつうにかまえてみると、『またやられたあ。』ということになる。

今年の夏休み、ほくは学校の水泳をがんばった。午前中は強化練、午後はみんなも来るプール。ほくは、泳ぎ続けた。がんばって練習し続けたら、びつくり、選手に選ばれた。

ちようどそのころ、ロンドンオリンピックが始まっていた。すると、母はほくを、『こうすけ』と元氣いっぱいに呼ぶようになった。本当の名前は『じんせい』なのに。水泳の北島こうすけ選手にちなんでのことらしい。呼んだら、速く泳げるようになると思えたらしい。でも、ほくが出場するのは、平泳ぎではなくて、自由形だ。そんなことは、おかまいなしの母。ほくの大会当日の朝まで、ほくを『こうすけ』と呼んでいた。

しかし、自分でも信じられない良い結果がでた。自己ベストを3秒も上回ったのだ。ほくは、毎日コツコツとがんばった自分をほめたいと思った。母は、にこにこしながら、『こうすけコールが効いたんだよ。』

と、満足そうにわらっていた。秋になると、今度は陸上練習が始まる。高学年が、市の陸上大会に向けて、練習する。母は、今度はほくのことを、『ホルト』と呼び応えんずると言っていた。でも、ほくが出場しようとしているのは、走りばとびだ。

ある日、ほくのつくった俳句が新聞にのった。ほくは、とて

もうれしかった。でも、ちょっとだけ『まずいかなあ』と思った。なぜかというと、『お母さん ならみをきかせる 参

観日』だからだ。ならみをきかせるは、おこられるかも…と思った。でも、母は予想とちがいで、うれしそうに新聞を見て、父に自まんしていた。不安なほくは、思い切つて、

「お母さん、はずかしくないの。」と聞いてみた。そしたら、やつぱり

「前向き、前向き。楽しいじゃない。」

と言ってくれた。ほくは、心の中で小さくガッツポーズした。さすがだ、と思った。

他にも、幼ち園時代の虫弁当事件はおどろかされた。こん虫好きのほくのために、真つ白なこほんの上に、いなごだけがのっている弁当。教室中が、楽しいパニックになった。家に帰つて、母に話すと、

「楽しかったねえ。」

と、ねらい通りだったかのようにニヤニヤしていた。今でも、思い出すと、楽しい事件だ。

何かすごい才能があるような母ではない。けれど、ほくは今、幸せだと思ふ。だつて、とても楽しい。何が起るかわからない、ワクワクの人生だ。母が母でよかった。

ありがとう、お母さん。『人生は、前向きに。楽しまなくちゃ。』ほくは、これからも、この言葉を手本にしていこうと思う。母のように、楽しく前向きに生きていこうと思う。